

はまこと心にもものしつるも、はなれや玄ぬらんと、あはれなる人もかなしうおぼすらんかし。  
〔蜻蛉日記下之中〕七月○天祿三年十よ日になりて、まらうどかへりぬれば、なごりなうつれくにて、  
ぼにのこのの御ふうなどさまふくになげく、

〔枕草子十二〕うちとくまじき物 右衛門のせうなるもの、ゑせおやをもたりて、人の見るに、お  
もてぶせなど見ぐるしう思ひけるが、伊よのくによりのぼるとて、海におとしいれてけるを、人  
の心うがりあさましがりけるほどに、七月十五日、ぼんを奉るとて、いそぐを見給ひて、道命あま  
やり、

わたつうみにおやををし入てこのぬしのぼんする見るぞあはれなりける

とよみ給ひけるこそ、いとをしけれ、○又見續詞花和歌集二十

〔今昔物語二十四〕七月十五日立盆女讀和歌語第四十九

今昔七月十五日ノ口盆ノ日、極ク貧カリケル女ノ祖ノ爲ニ食ヲ備フルニ不堪シテ、一ツ著タリ  
ケル薄色ノ綾ノ衣ノ表ヲ解テ、盜ノ瓮ニ入レテ、蓮ノ葉ヲ上ニ覆テ、愛宕寺ニ持參テ、伏禮テ泣テ  
去ニケリ、其後人怪ムデ寄テ此レヲ見レバ、蓮ノ葉ニ此ク書タリケリ、

タテマツルハチスノウヘノ露バカリコレヲアハレニミヨソホトケニ

ト、人々此レヲ見テ、皆哀ガリケリ、其人ト云フ事ハ不知テ止ニケリトナム、語り傳へタルトヤ、  
〔爲房卿記〕寛治元年七月十五日甲子、午上參法成寺、依孟蘭盆供也、家司行事清長朝臣、稱病當日不  
參、雖申事由不被仰替人、

康和二年七月十五日庚辰、今日法成寺自恣也、仍參入、去年六月以後、大殿○藤原師實未參御堂給、而今

日御衰日也、隨不參御權大納言以下上達部五人被參入、權律師慶增、僧綱三人、凡僧卅餘口參入、

〔殿曆〕康和五年七月十四日辛卯、北政所御渡京極殿、余○藤原忠實參御共、今日依日次宜拜盆、余衣冠於